

21

採草による未利用草原の再生

- 実施主体 草原再生オペレーター組合
- 実施場所 阿蘇市内
- 実施期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日



<背景・ねらい>

- ・現在未利用となっている草原の草を採草利用することで、草原の保全と野焼きの危険性の軽減を目指す。
- ・採草された草を、飼料や堆肥用の資材として活用することで、地域資源の有効活用による活性化を図ることを目指す。
- ・担い手や人材不足で野草の調達に苦勞していた畜産農家・耕種農家に適正価格で販売することで、阿蘇地域での野草の持続利用に貢献する。
- ・枯れた野草のTMR化など、新しい野草の活用方法を模索し、需要拡大について検討を行う。

■実施概要

- ・長雨などの悪天候が続き8月～9月に飼料用野草の採草作業ができなかったが、11月～3月に飼料用と堆肥・マルチ用の野草の採草を行い、主に熊本県内の農家に対して販売を行った。

■実施体制

- ・草原再生オペレーター組合が主体となり事業を推進し、事業に係る牧野組合との協議や野草販売等については、NPO法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇市、阿蘇地域振興局、阿蘇地域世界農業遺産推進協会等と連携しながら事業を実施した。

■成 果

①草原保全・再生への貢献

- ・令和元年度は約142ha（平成30年度約152ha）の採草を行い、約409トン（平成30年度約437トン）の野草を収穫した。

②活動の持続性・発展性

- ・採草量を拡大していくためには、未利用草地を多く抱える牧野組合の協力による採草面積の拡大と、堆肥用の販路拡大の両輪で進めていく事が大切である。持続的な活動に繋がるように仕組みづくりを進めていく。



採草風景

■実施者の感想

- ・草原の野草利用が草原保全につながる事をアピールする事で、野草飼料用及び野草堆肥用の採草量と販売量を拡大・向上させたい。
- ・今後は、チラシを作成し、顧客の満足度を高めてリピート率を高めるとともに、新規顧客の増加に合わせて安定供給できるために、生産体制の充実が重要となる。特に、オペレーター組合員の拡大に向けた広報活動を積極的に進めていきたい。また組織の基盤強化を図る為に、法人化を検討している。